



# 帝京大学小学校だより

## 最近の学校の様子から

帝京大学小学校 校長 石井 卓之

子どもたちが登校して来る朝の昇降口に立ち、健康観察を含めて様子を見ながら挨拶をしています。今年度はコロナ感染症の影響で大きな声を出す場面が制限されています。また、マスクをしながらの生活のため、声も出しづらくなっています。そのような複数の要因もあるとは思いますが、昇降口での挨拶はとても残念な状況にあります。

東京都の教育関係の面接官をこれまで何度も行ってきましたが、第一印象は大切だと感じています。もちろん面接内容は重視されますが、入室の仕方や第一声となる挨拶はとても重要な項目です。緊張する人とそうでない人はいますが、挨拶の姿勢や声は一朝一夕に身に付くものではありませんので、本人を知る重要なものとなります。また、色々な学校を訪問するときに、私は下駄箱の状態と子どもたちの挨拶の様子を気にしています。この二つがしっかりとできてい学校は、子どもたちが生き生きと学校生活を楽しめていることが多いからです。落ち込んだり悩みがあったりするときに、意図的に鏡の前で笑顔をつくと心が安定するというデータもあります。同じように学校の環境を整え、挨拶をしっかりとすることが学校のよさを引き出すと確信しています。次年度に力を入れていきたい項目の一つです。ご家庭でも是非、挨拶の大切さをお話いただければと思います。

## わくわくランド

今日、1年生が遊び方を工夫してつくった「わくわくランド」に幼稚園生を招待する、生活科の授業が行われました。緊急事態宣言が発令されていますので、急遽2年生を招いての会に変更となりました。どんな遊びにするのか、看板はどうするのか、ルール説明はどうしたらよいのかなど、自分たちで考えてグループで協力する大切な学習です。2時間目に準備をして3・4時間目に開始です。



とんとんずもう



もぐらたたき



工夫してつくったお店の看板

幼児期のごっこ遊びを発展させ、小学校の生活科としてねらいをもって行う活動であり、子どもたちには人気が高い単元です。活動の過程では色々なトラブルが起きます。

- ・ よりよい遊びにするには、自分の考えを活かしたい。でも、なかなか賛同が得られなく、けんかになってしまう。どうしたらよいのか。
- ・ みんなの意見がうまくまとまらず、いやになってしまう。
- ・ みんなのアイデアを積み重ねていったら思っていた以上の遊びができて、楽しんでもらえてとてもうれしかった。

1年生の3学期は個人から集団への移行の時期でもあります。集団の中での動き方や協力の仕方は体験から学ぶことが重要となります。教師が見守る安全な環境の中で、多くの失敗を経験しながらトラブルの解決の仕方を学ぶことで、大きく成長していきます。失敗しないように配慮することも大切ですが、失敗から学ぶことはもっと重要だと考えています。